

わすられておもふなげきの茂るをや身をはづかしの杜といふらむ

〔方丈記〕若日うら、かなれば嶺によび上りて遙に故郷の空を望み、木幡山、伏見の里、鳥羽羽束

師をみる、

〔山城名勝志〕六訓郡石作郷和名抄云石作郷乙訓郡、按石作郷、灰方、灰谷、出、此邊歟、一休年譜曰、讓

方村、出、灰雖、隔地、氏神同社、同時祭之、出、灰有、灰方村領山、

〔類聚國史〕三十三帝王延曆十一年閏十一月己亥幸高橋津、便遊獵于石作丘、

〔延喜式〕二十一諸陵石作陵贈皇后高志内親王、在山城國乙訓郡、

〔延喜式〕玄蕃十一凡近都諸寺東拜志以北、西石作以北、停預講師僧綱檢察、

〔空穂物語〕樓の上下「かくていしつくりてらのやくしほとけむじ給とて、おほくの人まう

で給、

〔山城志〕四葛野郡郷名 橋頭廢 大岡方廢 山田方廢 川邊廢 葛野已廢存郡 川島方廢 上林已廢存平

寺 櫛原已廢、上山田村 高田方廢 下林方廢 縣代已廢、木辻村東 田邑已廢、有

〔續日本後紀〕三仁明承和元年正月庚午、山城國葛野郡上林郷地方一町賜伴宿禰等、爲祭氏神處、

〔三代實錄〕二十二清和貞觀十四年十二月十五日辛亥、山城國葛野郡上林郷地一町充平野神社、○神社

紀、據日本

〔三代實錄〕三十五陽成元慶三年四月七日丙寅、庶人伴善男沒官墾田三町二段五十步、在山城國葛野郡

上林郷、永施入安祥寺、

〔三代實錄〕四十四陽成元慶五年八月廿三日己亥、勅以山城國葛野郡二條大山田地三十六町爲大覺寺地、

其四履、東至朝原山、西至觀空寺并栖霞館東路、北至山嶺、自餘山野入嵯峨院、四至者皆爲公地、若有

稱空閑申請者、一切不得勅許、但樵蘇之輩不在制限、九月廿七日壬申、山城國葛野郡櫛原郷野地